

## "百獣の王"ライオン

アニマルフォトグラファー  
トラベルライター

平 岩 雅 代

ライオンは"百獣の王"とたとえられることが少なくありませんが、厳しい大自然アフリカの草原で暮らす野生のライオンにとっては、危険や敵も多く、生きていくのは、なかなか容易なことではないようです。

アフリカのサバンナ(草原)で、ライオンは群れを作って暮らしています。この群れは"プライド"と呼ばれており、大きな群れでは30~40頭ものライオンがいます。

プライドの中心には、群れ全体を統率するオスが君臨し、メスやその子どもたちを支配しています。

自分のプライドの縄張りを侵す他のプライドからオスがやって来た時は、敢然と闘い、追い払わなければなりません。時には闘いで傷つき、挑戦者にとってかわられ、プライドを追い出されてしまうことすらあります。

群れを追われたオスの末路は、実に哀れです。

野生のライオンは通常3~4日に1度、プライドの中のメスが中心になって狩りに出かけ、獲物を持ち帰りますが、独りぼっちになったオスは、自力で獲物を手に入れなければなりません。ところが、元来オスはメス

に比べて敏捷性に欠け、狩りは苦手なのです。

何日も獲物を手に入れることができなければ、やがて飢えて死んでしまいます。

「背に腹はかえられない」とばかりに、ハイエナやチーターなど、他の動物が倒した獲物を横取りするオスライオンの姿を、私は現地で目撃したことがあります。

一方、リーダーを追い出し、新しい群れの支配者として生活することになったオスは、乗っ取った群れのメスたちを力つくでも従わせなければなりません。最初は他所からの乱入者を警戒して反抗するメスも、やがて新しいリーダーに服従し、何事もなかったかのように生活をするようになります。

リーダーが交替する過程で、時には前のリーダーの子どもたちが新しいリーダーにかみ殺されてしまうこともあります。

何んの抵抗もできず、怯えて立ちすくむ幼い子ライオンに、新しいリーダーは情け容赦なく襲いかかります。

我が子を殺されたメスも、子孫を残すという野生の本能からか、やがて新しいリーダーを受け入れ、新しく生まれた子を育てます。



写真1 リーダーのオスに寄り添うメスライオン

ライオンの咆哮は遠くからでもお腹の底に響きわたり、夜の冷たい空気をピリピリ震わせるように不気味ですが、写真1のようにゴロゴロとだらしなし無防備に白い腹を出して尽寝をしているライオンの姿を見ると、まるでネコのようにさえ思えてきます。

それにしても生後半年位までの、やんちゃ盛りの子ライオン

の行動は、ほほえましい限りです(写真2)。生まれたばかりのライオンの子の体には斑点が見えますが、これは成長するに従って薄くなり、成獣になりますとほとんど見られません。

の行動は、ほほえましい限りです(写真2)。

ライオンは1回のお産で4~5頭の子を生みますが、幼いうちの病気や飢え、怪我などにより、成獣になるまで無事に育つのは、1~2頭といわれています。

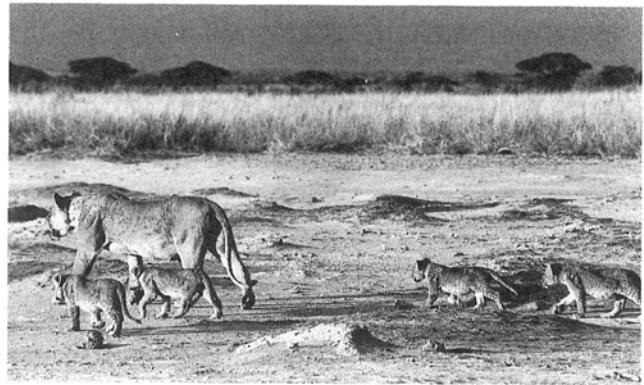


写真2 母親のあとを追う幼い子ライオンたち

同じ時に生まれた兄弟、姉妹は、成獣になっても行動を共にし、互いに助け合って暮らします。

立派なたてがみが生え揃った2頭のオスが顔と顔をこすり合わせ、まるでネコのように横たわってじゃれ合うこともあります。

〈ライオンひとくちメモ〉

▶東アフリカ各国(ケニア, タンザニア, ウガンダなど)で話されている公用語のスワヒリ語で、ライオンはシンバと呼ばれている。

▶野生のライオンの寿命はオス, メスともに20年ほど。生まれて2~5年で成

獣になる。体重は赤ん坊が1~2kg。成獣はオス150~200kg, メス120~170kg。

▶ライオンが狩りをするのは、おもに中型の哺乳類—シマウマ, ヌー, インパラなど。時には自分たちの4~5倍も体重があるアフリカスイギュウを襲うことがある。